

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 学校法人大阪学芸 大阪学芸中等教育学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒558-0003

大阪市住吉区長居 1-5-8

E-mail _____

Website <https://www.osakagakugei.ac.jp/secondary/>

幼児児童生徒数 男子 357名 女子 177名 合計 534名

幼児・児童・生徒の年齢 12歳～18歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「学校教育を通じて、地域・社会からの信頼や期待に高い水準で応えられる学園創り」を学校理念として、ESD を持続可能な社会の担い手を育む教育と捉え、ESD の実践を通して様々な現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むの力の育成を目標とした。

具体的には、自然環境との関係性、異文化との関係性、社会との関係性を柱に、

- ①環境教育に係わる活動、②世界遺産に係わる教育、③国際理解に係わる学習、④キャリア教育に係わる学習を行った。

① 環境教育に係わる活動

「地球温暖化、エネルギー、省エネ活動 (3R)」を主なテーマとして活動を行った。環境省除染プラザによる「放射線について正しい理解をする出張授業」では、生徒たちに、SDGS の 7「エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」を考える良い機会になった。

② 世界遺産に係わる教育

『はじめて学ぶ世界遺産50』（世界遺産アカデミー）を使用して、世界遺産について学習する。単に知識の習得に終わるのではなく、実際に世界遺産を見学したり、「観光と遺産保護の両立」や「木造遺産修復に関する真正性」をテーマにしたディベート、レポート作成、発表を通して、理解を深めている

③ 国際理解に係わる学習

総合的な学習の時間以外に、3年生では「オーストラリア」4年生では「ヨーロッパ」へ海外研修・海外修学旅行を実施している。その際、現地での学校訪問を通して、生徒間交流を行っている。希望する対しては、中学3年の3学期にターム留学制度も整えている。また、要請があれば、台湾から学校訪問も受け入れている。

④ キャリア教育に係わる学習

前期課程では、職業人をインタビュー、まとめたものを新聞にし、学内で発表することによって生徒の職業観を深める活動を行っている。後期課程では、マイナビ地域活性事業部主催のキャリア甲子園出場に向けて、生徒たちが主体的にビジネスプランを作成する活動を行っている。



① 環境教育



② 世界遺産教育



③ 国際理解教育



④ キャリア教育

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

『おおさか環境科』(大阪市)
『中学生・高校生のための放射線副読本』(文部科学省)
『はじめて学ぶ世界遺産50』(世界遺産アカデミー)

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

ESD を通じて育てたい資質や能力は、自ら課題を見つけ、学び、考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力である。これらの資質や能力を育成するために、具体的な指導方法として、グループワーク、ロイロノートを使用したプレゼンテーション、さらに後期課程ではディベートを取り入れた。指導内容は特に教科横断的な指導が行いやすいテーマを設定することに留意した。例、環境教育（理科、社会、国語）、世界遺産教育（社会、英語）、国際理解教育（英語、社会、国語）、キャリア教育（国語、社会、家庭、情報）

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

ESD を統括する部署を校務分掌の一つとして明確に定めた。その部署が中心になって指導内容・指導方法を研究し、担当教員に指示する流れを作った。また、学内に ESD が浸透するように、教員配当についても、さまざまな教科の教員が担当するように工夫した。さらに、今年度は管理職（教頭）が東京で実施された ESD リーダー研修に参加し、管理職に ESD の有用性を理解してもらったことは大きな意義があった。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価の方法としては、生徒アンケートを利用している。年 2 回実施し、学内で共有している。多くの生徒から、「今まで気づかなかったことが気づけてよかった」「グループ学習が楽しい」等、好意的な評価を得ている反面、これが「大学入試に関係するのかわ？」等、ESD の意義を生徒に十分に伝えられていない部分がまだまだある。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られ

本校がユネスコスクールに認定された当初から取り組んできた「世界遺産教育」が認められ、今年の 8 月、「世界遺産アカデミー」が主催する高校教員対象の事例研究会で代表発表することになった。また、「大阪府の魅力づくり推進課」との交流が契機となって、4 月から大阪府内の中高で、世界遺産学習を広める施策が取られる予定である。

た効果。(200字程度)

※チェック事項 2-2 に対応

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)

(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

今年度は、環境省除染プラザ(環境教育)、ユニクロ(環境教育)、大阪府の魅力づくり推進課(世界遺産教育)、世界遺産アカデミー(世界遺産教育)、そして一般社団法人青少年進路支援協会(キャリア教育)との協働・交流を行った。特に、環境省除染プラザによる「放射線について正しい理解をする出張授業」では、生徒たちに、SDGSの7「エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」を考える良い機会になったと思う。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

国内外のユネスコスクールとの交流は十分であるとは言えない。今年度、市内の公立小学校と、「ユニクロ“服のチカラ”プロジェクト」を通して交流と試みたが、私立学校と公立学校との垣根があり、うまくいかなかった。ユネスコスクールと言えども、交流の難しさを感じた。やはり、従来通り、交流が容易な、私立学校のユネスコスクールとの生徒会活動から、始めて行きたいと思う。生徒を積極的にユネスコスクール関連の行事に参加させることで交流の輪を広げたいと思う。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき(特に強調したい)内容(例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化)(200字程度)

※チェック事項 2-5 に対応

「ユニクロ“服のチカラ”プロジェクト」は、校内の保護者ならびに地域の方々に浸透してきて、毎年一定の成果を挙げている。今年度も、プロサッカーチーム「セレッソ大阪」を協力を得ることができ、難民問題の重要性等、本校が主体となって、生徒・保護者のみならず、一般の方々にも考えて頂く機会を持つてもらうことができた。

(3) 平成 30 年度の活動計画 (200~400 字程度)

基本的には前年度を踏襲した活動を行う予定。

1 年生：環境教育（地球温暖化、エネルギー及び省エネ行動を内容とした活動）

2 年生：世界遺産教育

3 年生：作文指導（5 年生で探究的な活動をするための基礎トレーニング）

4 年生：キャリア教育（主なものとして、今年度も、マイナビ地域活性化事業部主催のキャリア甲子園に参加を目指した活動）

5 年生：探究ゼミ（総まとめとして、各生徒が興味を持つテーマに添った探究活動）

但し、上記の内容が変更される可能性有。